

第九演奏会

指揮人
山口哲人

交響楽
上越交響楽団

ソリスト

ソプラノ 近藤美和
アルト 相澤真由美
テノール 渡辺直人
バス 松山いくお
合唱 第九合唱団

12

24月

糸魚川市民会館

開場/13:00 開演/13:30

主催 糸魚川市民会館

共催 (財)新潟県職員互助会・糸魚川文化協会

プログラム

1. 「エグmont」序曲 op84

2. 交響曲 第9番 ニ短調 op125 「合唱付き」

▶ 曲目解説 ◀

♪ 「エグmont」序曲 op 84

: L.v.ベートーヴェン

エグmontは史上に実在した人物で、ゲーテがその史実をもとにした悲劇を書いた。スペインの圧政から逃れて独立しようとする、16世紀のオランダが背景となっている。スペイン王のフィリップ2世は、その弾圧のためにアルバ公をさしむける。エグmontは、親友の忠告を聞かないで、無謀にもアルバ公に直言をしたために捕らえられたうえに、死刑の宣告を下されてしまう。エグmontの愛人、クレールヒェンは、必死になってエグmontを救おうとするが、ついにその力およばず、自ら毒をあおいで死んでしまう。断頭台に引かれる寸前のエグmontの眼前に、クレールヒェンの幻影が現れる。そして彼を祝福し、エグmontは強い足取りで刑場へと向かう。

♪ 交響曲第9番 ニ短調 op 125 「合唱付き」

: L.v.ベートーヴェン

- 第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストーソ
- 第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ
- 第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
- 第4楽章 プレスト～アレグロ・アッサイ

この曲はベートーヴェンの最後の交響曲であり、規模も壮大で声楽が加わっているなど、交響曲史の中でも画期的な意義をもつ作品である。

この曲は6ヶ月以上の年月を費やし、苦心して書かれた。広い人類愛を歌ったシラーの詩「歓喜に寄す」に音楽を付けることはベートーヴェン23歳の頃からの宿望であった。しかし交響曲の一部に合唱を加えることは構成上難しく、何曲も書き直した結果、今日見られるような天才的な着想をもって構成が出来上がった。

この曲の初演は1824年5月7日、ウィーンのケルトナートール劇場で、指揮は楽長ウムラウフが行った。終わったあと、耳の遠いベートーヴェンは聴衆の喝采に気づかず、アルトの独唱者が彼を聴衆の方に向き直らせた。これを見て聴衆は感動し、嵐のような歓呼が起こった。この曲の楽器編成は従来の古典的な編成がいくらか拡大され、第4楽章ではコントラファゴットが加わり、トロンボーンが3本となり、打楽器も増える。それに4人の独唱者と混声4部合唱が加わる。

▶ 出演者紹介 ◀



指揮 山口 哲人 (やまぐち あきひと)

新潟県上越市生まれ。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。同大学大学院修了。

音楽理論、作曲、指揮等を服部隆司、野田暉行、川井学、島岡譲、尾高惇忠、永富正之、広瀬量平の各氏に師事。作曲集団「New Sound Scape96」同人。「21世紀音楽の会」会員。

作曲の傍ら、上越交響楽団、三和銀行管弦楽団、フィルモア合奏団、国立音楽院管弦楽団の常任指揮者等数多くのオーケストラ、合唱の指揮指導にあたっている。近年は「カルメン」、「フィガロの結婚」、「セヴィリアの理髪師」等オペラの分野での指揮活動、池ノ平音楽祭等地元のアマチュア演奏家との交流育成、チャリティーコンサート等による広範囲に渡る音楽の普及にも力を注いでいる。

第14回神奈川県芸術祭創作コンクールに第一位入賞。1993年度全日本合唱コンクール公募入選「朝日作曲賞」受賞。上野の森プラス20周年「銀の森賞」受賞。稲門グリークラブ40周年記念作曲コンクール最優秀賞受賞。1996年度全日本吹奏楽連盟主催コンクール選択曲公募佳作。平成8年度文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞。くまもと未来国民体育大会（第54回国体）ファンファーレ入選。他。

95年3月にはこれらの作品の集大成として、混声合唱、バリトン、語り、オーケストラのためのカンタータ『やつかはぎ』を作曲、新潟県上越市にて地元音楽家数百人を率い初演指揮。好評を博す。

- 主要作品**
- チェロとオーケストラのための「わたしはシリウスにのって空を渡ろう」(92)
 - バリトン、混声合唱とオーケストラのための「やつかはぎ」(95)
 - 箏とオーケストラのための「片葉の葦」(95)
 - 弦楽の為のパスカルリア「この無限の空間の永遠の沈黙は私を恐怖させる」(96)
 - 金管十重奏のための5つの前奏曲「そらのひかりはすべてほし」(97)
 - パーカッションアンサンブルのための「蒼ざめた震える若者」(98)
 - 「エタクー みえない鳥ー」 ベース独唱、複数のヴァイオリンによる (98)
 - オーケストラのための「フィオーレ・ムジカーリ (音楽の花束)」(01)

ソリスト



ソプラノ 近藤美和 (こんどう みわ)

糸魚川市出身、青海町在住。国立音楽大学声楽科卒業。

小川恒子、加藤美那、相庭尚子、大島洋子の各氏に師事。1998年に新潟県音楽コンクール声楽部門にて最優秀賞受賞。

その他

- 1997年 「第九を歌う会」合唱指導に招かれ指導。のち「コーラス青海ボレボレ」と名をあらため第九の他に混声合唱の指導にもかわり現在に至る。
- 1997年 青海町総合文化会館にて「青い海と鳥たちのためのコンサート」を企画、出演。
- 1999年 同会館にて町民創作劇「翡翠(みどり)零れる」に奴奈川姫・成美(二役)で出演。
- 2001年 県文化振興財団制作 創作オペラ「てかがみ」に出演。



アルト 相澤真由美 (あいざわ まゆみ)

糸魚川市出身。

昭和音楽大学卒業 同専攻科修了。

財日本オペラ振興会 オペラ歌手育成部第10期生修了。新潟県音楽コンクール優秀賞受賞。

平成2年度文化庁国内研修員。'94年からイタリアに留学。'99年2月ニューイヤール新潟・オペラ・ガラ・コンサートに出演。

オペラでは「フィガロの結婚」のマルチェリーナ役、「ミトリダーテ・エウパトール」のイシクラテア役、「カルメン」のカルメン役・メルセデス役、「ジャンニ・スキッキ」のツィータ役、「椿姫」のフロラ役等の出演。また新潟ニューセンチュリーオペラ「てかがみ」のレイチェル役で好評を得る。東成学園主催「メサイア」公演ではアルト・ソロを歌う。



テノール 渡辺直人 (わたなべ なおと)

能生町出身。国立音楽大学声楽科卒業。

バッハ「h-moll ミサ」、モーツァルト「ミサプレヴィス」「レクイエム」「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」等でソリストを務める。'93年より毎年、新潟県能生町において、さらに'95年6月、駒場エミナスにおいて、ジョイント・コンサートを開催し、好評を博す。特にカンツォーネを得意としている。'99年1月、藤原歌劇団公演「椿姫」ジュゼッペ役でデビュー。

他藤原歌劇団公演、その他多数のオペラ、コンサートに出演する。18回新潟県音楽コンクール声楽部門 県知事賞受賞。日伊声楽イタリアコンクール入賞。藤原歌劇団準団員。日伊協会会員。



バス 松山いくお (まつやま いくお)

糸魚川市出身。昭和音楽短期大学卒業。東京声楽音楽学校オペラ研究科修了。オペラ活動を中心として20年余の舞台経験を持つ。「愛の妙薬」のドゥルカマール、「魔笛」のババゲーノ、「泥棒とオールドミス」のボブ、「フィガロの結婚」のフィガロ役など、軽妙な役柄に多数のレパートリーを持っているが、最近では「フィガロの…」のバルトロやアントニオ、「カプレーティ家とモンテッキ家」のロレンツォ神父、「みどりの天使」の庭師ムスターシュ役など、キャラクターを活かした役柄も積極的に手がけ、存在感のある役作りと歌唱で好評を得ている。トリエステ留学中、宗教音楽の作曲家M・ソフィアノプロ氏から「予言者エレミアの12の哀歌」の献呈を受け、世界初演のコンサートを開催し、マスコミからも高い評価を得た。最近の公演では、新潟と長岡でのオペラ「てかがみ」において杉本監督役を的確な表現と歌唱で演じて、絶賛された。また自ら主宰する「ミラマーレ・コンサート」は、10回を越える開催をしており、オペラを身近に感じてもらう事を目的とした解説つきコンサート等で成果を上げている。昭和音楽大学講師。藤原歌劇団団員。

http://www08.u-page.so-net.ne.jp/ca2/triestin/